

高松市は国に先駆けて昨年10月に事業仕分けをした。10事業だったが、やってよかったと思う。各部署から、とくに市民と一緒にやってつくりあげるやり方がいいのかどうかという事業を、仕分け人に見ていただいた。市民の前でオープンにやったので、初めて市の政策が分かり理解が深まったと好評だった。

仕分けを通じて、説明する職員にも課題があることに気づいた。オープンの中で説明するのにプレゼンテーション能力不足だなと反

りとりの中で方向性を出し、今まではブラックボックスだった部分が開かれたことは非常に画期的だ。

首長の國政展望論

新画面をいっしょ

大西秀人・高松市長

省し、意識改革をやる大きなきっかけになった。仕分けの結果、1事業を廃止、3事業は民営化、6事業については民間に大幅に軸足を移すことになったが、それよりも事業仕分けというオープンの場でもやりとりをしながらひとつの判断が出されることに意義があった。

国の事業仕分けは、高松市との共通点でいえば、オープンにしたことが評価できる。オープンにしたことで、今まで国民にまったく見えなかった国の予算編成過程を、インターネット中継や現場で直接見る事ができた。真剣なや

ただ、本質的に国と地方自治体の事業仕分けははまったく別物。国がもとも事業仕分けを導入しようとした動機は、概算要求で非常に膨らんだ予算から無駄を排除し、予算を削減するためで、本来の事業仕分けの趣旨とは違う。取り上げられる事業も、例えば地方交付税という地方財政の根幹をなす制度だ。地方の固有財源で

これまでの積み重ねである制度が、ああいう事業仕分けの場に出され、抜本見直しという結論が出たものの、方向性は示されなかった。このように、あの場に出すにはなじまない事業もあり、どうしても乱暴な議論にならざるを得なかった。

事業仕分けは、現場を伴う市の事業についてどうすべきかと論議するのにはなじむが、例えば「国の道路予算が100億円あります。これはいいですか、悪いですか」と聞いてもしょうがない。道路予算が現場でどう使われて、どう道路が造られて、どうい

国の予算は仕分けに不向き



ふうになされている、だからそこに無駄があるのか、どうなのか」という議論でないという意味がない。国の予算は得てして概算が多いので、本来の事業仕分けにはなじまなかった。

民主党はマニフェスト（政権公約）でいっているように、地域主権国家を目指し、基礎自治体、市町村を中心として権限、財源を確保して、主権者たる国民の身近なところでの確な行政サービスをやっているという方向性を出している。これについては評価しており、新年度はそれに基づいてきちっとやってほしい。嶋山由紀夫

首相がいう「コンクリートから人へ」は言い過ぎだが、公共事業の無駄を洗い出し少し予算を抑えた上で、人や子育て支援に対し投資しようという方向性は是認できる。

ただ、高速道路の無料化というのは、環境対策に逆行するような施策で、首をかき上げる。確かに暫定税率の役割はもう終わっており、道路特定財源は一般財源になっているので残しておく必要はないが、やめるのであれば財源として環境目的税、炭素税などをきちっと導入すべきで、できれば検討してほしい。

おわり

おおにし・ひでと 東大法学部卒。昭和57年に自治省（現総務省）に入り、北海道財政課長、島根県総務部長、総務省自治財政局公営企業課地域企業経営企画室長、同省情報通信政策局地域放送課長などを歴任。平成19年4月に高松市長選に立候補し、無投票で初当選した。香川県丸亀市出身、50歳。